

中国の欠点、そして長所

春を迎えようとする季節、大学構内でも北側の北山の緑地でも、新芽が芽吹き少しずつ花の開花が目立つようになった。

私の留学生活も2ヵ月近くたち、例の感冒を経験した後でもあり、この国の欠点や短所、それとは逆に利点や長所なども少しずつ見えてきた。かつて中国へ行ったことのある人なら、当初は公共のトイレなどあまりに不衛生で驚かされた経験があると思う。こうした衛生設備はこの間、大いに改善されたと思う。大都市に中高層の団地が建つようになって、トイレの水洗化は当然のこととして進化した。しかし、一旦こうしたものが壊れると治るまでには時間がかかる社会なのだと思う。大学の図書館でトイレに入ると、そのボックスが壊れていて、使う気になれなかったことがあった。その後に利用しようと思っても、壊れたままということもあった。

大学の南側に東西に延びる大通り「黄河路」は、片側三車線の大きなそしてしっかりした舗装路だった。この時期その幅広の歩道上に道を塞ぐように下水の流れが出来て、道行く人に異臭を放っていることが続いた。こうした経験を久しく日本で経験したことのない私は、行政の対応がこうも進まない点を「中国の遅れ」と感じずにはいられなかった。汚水は、道沿いのホテルの改修工事現場近くから流れ出ていたが、日本に帰る7月頃、その工事が完成しようやくなるまで続いていた。この汚水に、浸かった靴でそのまま家に入ると思うと、不衛生だなあというのが率直な感想だ。※1

宿舎には各部屋に液晶テレビが設置されていた。メーカーを見ると HiSense 社製※2で、電波が届くならさぞかしきれいな映像が映ったと思う。ところがつけてみると電波が弱く、まともには映らなかった。例の受付で映らないので何とかしてと言ってみても、結局最後までアンテナなのかそのブースターなのか、増設改良工事は行われず、宿舎内のどのテレビもサンド・ストームに近い状態だった。想像するに、テレビの入れ替えか新設を行う予算がついたので購入してみたものの、それに見合う集合アンテナの設置工事の予算措置がされなかったのだろう。4,5月には中央電視台のドラマ・シリーズ『劉少奇』の伝記物を続けて視聴したが、実際に見たのはパソコンで中国の YouTube に当たる「優酷(youku)」を使って見ていた。宿舎の管理をするホテルを兼ねた本館に部屋があるクラスメートにも聞いて見たが、やはり見るができなかったそうだ。こういう経験をして思うのは、中国はまだ何か足りない。文明国家の一員としての自負があるそうだが、現実はまだ途上では、と思わされた。

※1 現在のコロナ騒ぎでも、その発生源だと言われる武漢市の海鮮卸売市場について感染症の専

門医は、大変不潔で衛生上問題だと警告していたと言う。政府が幾ら先端的に政策推進しても、国民全体の意識を変えるのはなかなか難しいと思う。

※2 Hi Sense 社製のテレビは日本でも売られている。一台購入しているが、大変画質が良い。ただし、これもスピーカーの音が割れ、実用面で問題はないが、聞き取りにくい面が残っている。



5月に陸橋から撮影した黄河路。遠くに都心の超高層ビル街を見通せる。

その一方で、羨ましくなる点も一部にはある。何よりもこの都会大連市の都市景観は良くなったし、中国の経済成長が続く限り、美しく快適な街づくりが続くだろうと言うこと。これは土地制度が原因しているのだろう。中国は全土が国有地で、国民にその所有権はない。しかし、これでは経済成長の支障になるので、土地の使用権は国民に与えられている。居住用の土地であれば、70年という長期に渡りその使用が認められる。しかし、土地利用にも公的な制限がつく。無秩序な乱開発など理屈の上ではできない。結局、大都会では行政が地域計画を推進し、新たな区画には高層のタワーマンション群が出現している。土地への私権が絶対で、細分化された零細な住まいが放置されている現代日本と比べると、中国は近い将来欧米先進国並みの快適な都市空間に満たされるかもしれない。その整然とした都市景観は、私が子供時代、アニメの『鉄腕アトム』に見た未来世界を彷彿とさせる。

子供ながらにきれいな街ができるんだなあ、とっていたが、今の社会制度の下での日本では、そんな美しい都市づくりなど都市内に斑点として成立するだけで終わるだろう。一私企業の「森ビル」が都心の港区で再開発に意欲的だ

が、それで街全体が整理される訳ではない。残念ながらアトムが描く未来は、この国には成立しない。都市改造を公的な立場で推進できる現代中国をある意味で羨ましく思うのは私だけだろうか？